

創建 そうこん

2009・3・25 VOL.43 NO.4 (通巻128号)

巻頭言／倉田光春・1

教育環境に思いを載せて／近藤道男・2～3

大学院特別講義報告・4

学術研究報告会・5

修士学位論文／卒業研究発表会プログラム・6

卒業設計作品展／コンクール・展示会等出展作品・7

卒業式・修了式の表彰者／教室ニュース・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

「頼んで頼まれ、迷惑を掛け合わないと 友達になれない」

近頃、頂いた静岡茶を飲んでいる。美味しいのだが如何に淹れても甘みが少なく苦い。静岡では渋くて濃いのが良いらしい。しかし、何と言っても嬉野茶が好きだ。ほのかに甘みがあり、素朴で実に美味しい。人の紹介で、老夫婦がつくっているお茶を送って貰い常備している。人柄が出ていて素直でやさしい。同じように淹れても何か足りない。淹れて貰うと何とも言えず美味くて幸せである。長い付き合い、便りで「何かの折りに寄って下さい。」と幸せを頂いていたが実現していない。お茶一筋、十分に掛けた手間と労力、本当に有難く感謝である。一回一回美味しく頂かねば。

佐賀嬉野は温泉とともにお茶が有名。温泉街から離れた山の斜面に、たくさんのお茶畑があるという。

迷惑掛けっぱなしの俳人山頭火、曰く

嬉野はうれしいところ 湯どころお茶どころ
草鞋ぬぐには良いところ
炭起こして、静かにお茶する
筑後屋 落ち着いたよい湯よい宿
朝湯朝酒勿体ない 俳句に遊び 酒に遊ぶ
この道や 幾人行きし 今日我は行く
苦しいみち 楽しいみち 優しいみち
無理するな あせるな いらいらするな
なるようになれ ばたばたするな
流れるように流れてゆけ
うそらしいうそはよい うそらしいほんとうもよい
ほんとうらしいうそはよくない
ほんとうらしいほんとうをいいたい
清く、正しく、美しく
すなおに つつましく
我が心 水の如くあれ 我が心 空の如くあれ

今はなき頂いた幸せに、茨城の手づくり菜種油と福島双葉の蜂蜜がある。黄色い天ぷら幾らでも、癖がなく、程好い甘味、もう口にはできない。亡くなられたり、やれなくなったり残念無念。家族の幸せを祈り、長きに渡る暖かな好意、決して忘れない。

今も頂いている幸せは、年一度の山形のサクランボ、農としていたお父さんの代から続いている。最近では三春のブルーベリーが美味しい。ジャムをつくったり、楽しんでる。家族と親族用のお米なども分けて頂いた

りして、親切にしてもらっている。フランス料理のコートドール、自然食のとみやさんなどなど。幸せな食卓はこの人達のお陰、美味しいもの有難う。決まって皆素朴で一生懸命、本当にいい人達である。

本気で得ようとするときは、何かを捨てねばならず、その痛みを伴うもの。人それぞれであるが、大切に大事にしたい貴重なもの、それは一朝一夕に、そう簡単にできるものではない。良いものを得たいと思えば、その思いを伝えるため、手間と労力が勿論予定外の費用が嵩むもの、良いものを提供したいと思えば、必要以上に手間と労力、費用が嵩むものである。また、より良い満足の行くものを得ようとしたり、創ろうとすればするほど、必要以上に互いに痛みを伴うものである。手間と労力を惜しみ、予算をケチり妥協すれば痛まず、手間と労力を削り、費用が節約できれば痛まず、共に良かったとも言える。だが、得たり提供したりするものが安きに流れ、財にならず、対価として満足できないのは当然である。より良いものを創ったり、身に付けようとするれば、CAD研修のように手間と労力、そして思った以上にお金が掛かるもの。

教育も然り。学生は、学ぶことに手間と労力を惜しまず、資料などに十分お金を掛けたとき、初めて学力と思考能力そしてその技術が身につくもの。教師も同様。講義に、演習・レポートの評価と返却に、十分に手間と労力を掛け、さらに資料などにお金を掛けたとき、学生に教え教えられ、教育力が身に付くものである。ある意味、双方が共に痛んで、頼り頼られ迷惑掛け合って初めて真の教育の成果が上がるもの。それは互いに痛むけれど、その痛んだ分、掛替えのない幸せが与え与えられる。

学生と共感できる年の頃、苦楽苦楽人と称する小冊子を学生とともにつくった。今思うに、何とも恥ずかしい限りで赤面する思いである。しかし、若さ故の幼さと自由な気持ちが溢れていた。苦あれば楽あり、楽あれば苦あり、自由で、共に学び、共に遊ぶのが楽しく、頼んで頼まれ互いに迷惑を掛け合っていた。学生もMy family。お陰で娘に「学生さんの方が大切なの！」と言われる始末。とんでもない。家族が一番大切に決まっている。そう言うものの。家族や親戚が沢山いるときは何やっても楽しかった。亡くし、昨年亡くして、今亡くそうしている。
(教授 倉田光春)



教育環境に 思いを載せて

学生諸君に対して私にできることがあるとすれば、設計業務を生業にしていることを生かして、設計への取り掛かり、過程の多様性とその楽しさ、もの創りということの充実感を何らかの方法で伝えることで、建築を少しでも感じてもらいたいと思っています。感性を大事にし、柔らかい発想を信じて取り組み、そして、建築を好きでいてほしいと願っています。

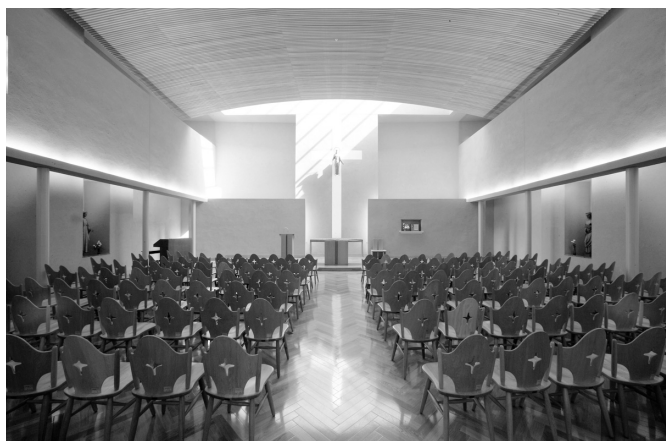
非常勤講師 近藤 道男

カリタス女子中学高等学校 2007 教育理念と学校建築の融合

「教育構想なくして新校舎建設はありえない。」これが新校舎建設にかける一貫した姿勢である。基本構想づくりから設計者として参加し計画は二年半に亘った。その結果、運営として教科センター方式がとられた。

新しい学校づくりには理念が必要となる。そのためには観、すなわちこども観、教育観、学校観を問い直すことが必要と考える。公立の学校づくりと異なり、私学では自分たちの「家」をつくる感覚で取り組むことができる。多くの意見の中でぶれが起きても、建学の精神・SIに立ち返ることができ、その学校らしさを具象化する根幹ともなる。

写真 右上：外観
左上：聖堂 右中：図書室
左下：フォワイマエレ 右下：メディアスペース



プロフィール

昭和26年1月 千葉県生まれ
 昭和52年3月 武蔵野美術大学大学院卒業
 昭和52年4月 山下和正建築研究所入所
 昭和63年12月 近藤道男建築設計室設立
 平成11年～ 日本大学工学部非常勤講師
 平成11年～16年 東京電機大学工学部非常勤講師
 平成19年～ 東洋大学工学部非常勤講師

委員

文部省 木材を利用した学校施設に関する調査委員会
 福島県 福島県消防学校設計競技審議副委員長

主な受賞歴

塙町立常豊小学校 [1993]
 第14回東北建築賞, 平成6年度文部大臣奨励賞
 三春町・船引町学校組合立要田中学校 [1994]
 第15回東北建築賞, 第13回福島県建築文化賞奨励賞
 棚倉町立社川小学校 [1997]
 第18回東北建築賞, 第40回建築業協会賞 (BCS賞)
 むつ市立図書館 [2000]
 第18回日本図書館協会建築賞
 田園調布学園中等部高等部 [2005]
 BRICK DEVELOPMENT ASSOCIATION Brick Awards 2004
 カリタス女子中学高等学校 [2007]
 第53回神奈川建築コンクール優秀賞

三春町・船引町学校組合立要田中学校 1994

環境の熟成を願って

全校3学級という山間の小規模中学校である。構想から完成までに要した歳月は10年に近く、全員参加による学校づくりが達成された稀有な例といえる。地域の人々の協力や、生徒・教職員の手により環境整備が進み、空間は豊かさを増しつつある。そのような要田中においても、学校統合が考えられているという。まことに残念である。

写真

要田中 左上：中庭 左下：オープンスペース
 社川小 右上・下：中庭



棚倉町立社川小学校 1997

地域とともに夢を育む学校

全校6学級の小規模小学校である。この施設を生涯学習に対応した、学習・活動・交流の場として地域に開かれた「総合文化センター」として、また雑木林、清水の流れ込みなど周辺の恵まれた環境を「感性の教育の場（エコミュージアム）」と位置づけた。

土地の傾斜に沿って諸室を配置し、環境・建築デザインのうえで変化のある空間を作り出すこととした。もともとの土地の持っている力を借りて設計したと言っても過言ではない。



大学院特別講義報告

「世界一高いビル TAIPEI101」(青垣英夫先生)を聴講して

大学院修士課程1年 添野祐平

今年度の大学院特別講義は、11月13日に70号館7014教室にて、青垣英夫氏(株三井不動産レジデンシャル 日大卒)による「世界一高いビル TAIPEI101」と題して開催された。

講演では、現在世界第一位の高さを誇るTAIPEI101のプロジェクト概要や施工法、建物のデザインに関する話や、実際に現場で起こった出来事などを交えて講演していただいた。その中から、TAIPEI101について興味を持った事項について述べる。

まず、建物の概要だが、TAIPEI101は台北市に建つ国際金融センタービルである。その規模は地下5階、地上101階、高さ508m、延べ床面積412,500㎡で、建物内部には商業施設や展望台などがあり、現在は台北市のシンボルとして、観光スポットにもなっている。

建築設備の特徴としては、世界最速として有名になったエレベーターがある。このエレベーターは日本の企業のものであり、その速さは世界最速の毎分1010mで、日本最速である横浜ランドマークタワーの毎分750mと比べると圧倒的な速さである。この「毎分1010m」にも意味があり、101にかけている。

デザインにも大きな意味を持っており、縁起の良いものとの関連が強い。まず全体のデザインイメージは仏教をモチーフにしており、空へまっすぐ昇っていく「竹」をイメージしている。27階から89階にかけては、逆台形の区切りがついており、8階を1節として8節続いている。日本でも末広がりとして縁起の良い数とされているように、中国や台湾でも「八」は縁起のよい数とされている。TAIPEI101のデザインには様々な意味合いが込められているが、縁起物と関連付けられた建物ということに新鮮さを感じた。エレベーターの速度や縁起のよいものをデザインに込めるという感覚は、その国の国民性が表れているのではないだろうか。

構造的観点からTAIPEI101を見ると、台湾は日本と同じ地震大国であり、その建築基準も日本の建築基準に匹敵する。更に、勢力の強い台風が数多く上陸するのも自然災害の面からみた特徴である。そのため、耐震設計だけでなく、耐風設計も重要となってくるのだ。

このような自然条件の中で、これほどの高層建築が可能になった背景には解析技術の向上と高強度な材料の大量生産が可能になったことが挙げられる。そこで、TAIPEI101に代表される技術が制震装置である。88階からその姿を見えることもできる振り子型TMD (Tuned Mass Damper) 制震装置は、直径5.5mの球形で重量が650 tにもなり、92階から計8本の直径90mmのケーブルで支持されている。球状ではあるが、施工において

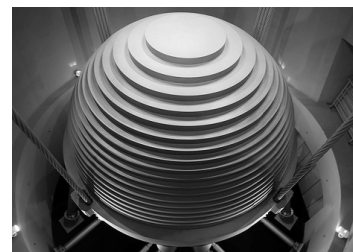
は鉄板を順に重ねるといった工法がとられた。これだけ大きな制震装置にも関わらず、コンピュータ制御はされていないというのだから驚きである。効果としては約40%の揺れを制御することが可能で、地震や風によって揺れが生じた場合、この振り子が円形状に動き制震効果を発揮するのである。

構造は鉄骨メガストラクチャー構造システムからなり、骨組の水平剛性・強度が確保され、意匠計画に適合した構造体が可能となった。こうした構造体を作るのが可能となった背景には高い施工技術がある。CFT柱においては、これだけの規模の建築物になると高層階では取り入れるのが難しいとの見方もあったが、高流動で高強度のコンクリートにより可能となった。しかし、講演中に出てきたスライドを見て、材料性能・解析技術の高度化だけでは成り立たず、この施工技術の裏には人の手による作業が土台となっていることを知った。特に印象的だったのが、鉄骨柱内のボルトが締まっているか一本一本、人の手によってチェックを行うことである。気の遠くなる作業であるが、このような小さなことでも見逃さずに作業を行うことが、高層建築物を建設するために重要なことであると感じた。

講演の最後に、建設中に起きた事故について話していただいた。事故が起きたのは2002年3月31日11時57分のことであった。青垣氏自身も「今でも目に焼きついている。腰が抜けるような体験だった。」とおっしゃっていた。地震発生によりクレーン2機が落下し5人が死亡するという大きな事故であった。日頃から安全管理を徹底している現場ではあるが、現場の事故は人為的な事故がほとんどであり、自然災害の二次災害には対応しきれなかったのだ。現場における危険性の高さ、安全管理の重要性を改めて感じた話であった。



TAIPEI101



TMD制震装置

今回の講演を聴講して、世界的に有名である建物の竣工までの過程を知ることができ、高層建築物だけでなく、建物が建つためには多くの現代技術と人の手が必要不可欠であるということを知った。これから現場に出る我々であるが、現場での仕事の重要性、現場に立つことの必要性を改めて感じる事ができた講演であった。

第51回日本大学工学部学術研究報告会〈建築学部会〉

開催日：平成20年12月6日（土）

- ・弾塑性理論に関する一考察 ○倉田光春
- ・マトリックス法による動的構造解析法に関する一研究 ○杉山和隆・倉田光春・Buntara S. GAN・野内英治
- ・各種断面形状に働く流体力に関する研究 ○添野祐平・倉田光春・Buntara S. GAN
- ・アルミ管を用いた単層ラチスドーム模型の局部座屈性状に関する実験的研究 -その1 機械的性質- ○福田大介・伊藤禎二・倉田光春・野内英治
- ・アルミ管を用いた単層ラチスドーム模型の局部座屈性状に関する実験的研究 -その2 部材の座屈実験- ○伊藤禎二・福田大介・倉田光春・野内英治
- ・1自由度系への縮小・復元法における研究支援ソフトの開発 ○Buntara S. GAN・倉田光春・川田尚弘
- ・新規防せい剤混入セメントモルタルによる鉄筋に対する防せい性 ○丹藤正敬・小林以弦・Sanjay Pareek
- ・ポリマーセメント系接着剤を用いたCFRP補強RC梁の曲げ・せん断補強効果に関する研究 ○岸哲也・Sanjay Pareek
- ・鉄製永久型枠を用いたRC造柱・梁部材の力学的特性 ○寺田健一郎・Sanjay Pareek
- ・高強度材料を用いたRC造柱・梁接合部に関する実験的研究
その8 斜補強筋および鋼繊維補強コンクリートが接合部せん断強度および靱性能に与える影響 ○鈴木裕介・Sanjay Pareek・倉田光春
- ・福島県内学校施設における耐震診断・改修の現状 ○浅里和茂・千葉正裕・日比野巧
- ・耐震補強の有無による日本大学工学部1号館の立体振動性状 ○志賀竜太・千葉正裕・浅里和茂・日比野巧
- ・2008年岩手・宮城内陸地震における情報研究棟および周辺地盤の地震動観測 ○日比野巧・千葉正裕・浅里和茂
- ・街並み構成材料の地域特性に関する調査研究
-その24 主要中心業務地区における外壁仕上材料の色相採用傾向と地区間類似性- ○田綿隆文・岩崎博
- ・亜鉛スラグを使用したモルタル及びコンクリートの基礎的性質 ○寒河江賢伍・出村克宣・宇智田俊一郎・熊谷征八郎・草野仁司
- ・自然ひび割れ供試体を用いた表面含浸材の止水性評価 ○藤井知明・出村克宣・橋本純
- ・ビニロン繊維補強ポーラスコンクリートの耐凍結融解性 ○有岡大輔・齋藤俊克・出村克宣
- ・日本の写真美術館の実態からみた展示方式に関する研究
~写真美術館の管理運営上の問題と展示方式の特徴について~ ○米田亜耶子・若井正一
- ・アルゼンチンにおける現代建築の特質に関する一考察 ~ブエノスアイレス市のラボカ居住地の光と影について~ ○森マリア・若井正一
- ・多人数が出入りする店舗等における客の行動特性に関する研究
飲食店を事例とした来店客の座席選択傾向について ○今井健太郎・若井正一
- ・アーケードのある街路の空間構成に関する研究 -歩行時の注視傾向と空間把握について- ○千葉将隆・三浦金作・土方吉雄
- ・児童の遊び場に関する調査研究 -複合遊具の有意性と公園内のテリトリー意識について- ○鈴木大・三浦金作・土方吉雄
- ・既成市街地における防犯環境設計に関する研究 -その5. 地域特性と監視性について- ○及川美帆・三浦金作・土方吉雄
- ・地域別に見る建築物と人口の変動分析と低活用地の利用の提案
~K市中心市街地における土地利用の変化予測と低活用地の利用に関する研究~ ○武田行由・狩野勝重
- ・S市中心市街地における通行量分析 ○唯野陸泰・狩野勝重
- ・景観形成を視野に入れた建築物の評価尺度に関する研究 ○宮下英子・狩野勝重・松井壽則
- ・利用者の劇場・ホール施設に対する印象評価の分析
-一般開放性を重視した劇場・ホールの利用者空間に関する研究- ○篠木正義・浦部智義・三浦金作
- ・オープンスペースをもつ小学校における児童の遊び行動に関する研究 ○三浦泉・市岡綾子
- ・ラオス国における学校・CLC建設の技術支援 その3 ○浦憲親(金沢工大)・水野一郎
- ・インド国内主要駅における音環境調査 ○濱田幸雄
- ・避難所生活からみる生活行為音の軽減手法に関する研究 ○秋光昂・濱田幸雄
- ・新潟県中越沖地震における被災実態報告 ~第1報 応急仮設住宅の実態と問題点について~ ○飯田裕樹・若井正一
- ・官庁型オフィスにおける執務者の着座位置と作業環境に関する検討
窓際着座者からみたVD T作業時の表示画面の見やすさについて ○松下信禎・若井正一
- ・巨大建築物の可能性に関する研究 ○渡邊康友・倉田光春
- ・個別要素法による歩行者の動線シミュレーション手法に関する基礎的研究
-室内空間の目標点と開口位置について- ○佐久間啓太・倉田光春・野内英治
- ・床仕上げの違いが歩行者の移行動作に与える影響に関する研究
K市内の街路を事例とした車いす利用者の歩行感についての一考察 ○北井仁志・松井壽則・若井正一
- ・開口部における歩行者の出入り動作に関する一考察 ○金子慶太・若井正一
- ・安全性の視座からみた階段等の昇降動作に関する研究 研究の系譜と急勾配の昇降動作に関する一考察 ○久米幸男・若井正一
- ・階段移動に伴う印象的なシーンの分析 -建築空間における階段の研究- ○元田草太・浦部智義・三浦金作

平成20年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会

日時：平成21年2月18日(水) 場所：日本大学工学部 70号館6階 7061教室

1. 避難施設の現状分析と音環境の改善手法に関する研究 秋光 昂 (指導：濱田 幸雄 教授)
2. ねじ込み接合によるアルミ単層ラチスドームモデルの座屈性状に関する実験的研究
伊藤 禎二 (指導：倉田 光春 教授, 野内 英治 専任講師)
3. 開口部における歩行者の出入り行動に関する人間工学的研究 金子 慶太 (指導：若井 正一 教授)
4. 安全性からみた階段等の昇降銅座に関する人間工学的研究 久米 幸男 (指導：若井 正一 教授)
5. 写真美術館の実態からみた展示方法に関する基礎的研究 米田 亜耶子 (指導：若井 正一 教授)
6. 亜鉛スラグのセメント系材料への有効利用 寒河江 賢伍 (指導：出村 克宣 教授)
7. 個別要素法による歩行者の動線計画シミュレーション手法に関する基礎的研究
佐久間 啓太 (指導：倉田 光春 教授, 野内 英治 専任講師)
8. 細長い平面形を有する建物の立体振動挙動に関する研究 志賀 竜太 (指導：千葉 正裕 教授)
9. 一般開放性を重視した劇場・ホールのオープンスペースにおける利用実態と空間評価に関する研究
篠木 正義 (指導：三浦 金作 教授, 浦部 智義 専任講師)
10. 児童の遊び場に関する調査研究 鈴木 大 (指導：三浦 金作 教授, 土方 吉雄 准教授)
11. 福島県中核都市における低活用地有効活用の提案 武田 行由 (指導：狩野 勝重 教授)
12. 地方都市中心市街地の持続可能性と提案型住環境整備 唯野 睦泰 (指導：狩野 勝重 教授)
13. アーケードのある街路の空間特性に関する研究 千葉 将隆 (指導：三浦 金作 教授)
14. コンクリートのひび割れ補修材料としての無機系表面含浸剤の性能評価
藤井 知明 (指導：出村 克宣 教授)
15. 景観形成を視野に入れた建築物の評価尺度に関する研究
宮下 英子 (指導：狩野 勝重 教授, 松井 壽則 准教授)

平成20年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会

日時：平成21年2月6日(金) 場所：日本大学工学部 62号館3階 6232教室 (AV講義室)

1. メディア情報の差異による歩行者の経路選択と探索行動に関する研究
瀬戸 洋樹, 森田 唯, 金子 光義 (指導：三浦 金作 教授)
2. 児童の遊び場に関する調査研究 清水 靖貴 (指導：土方 吉雄 准教授)
3. 災害対策を見据えた歴史的建造物データベースの活用について
—会津若松市の文化財指定建造物について— 佐藤 忠之 (指導：狩野 勝重 教授)
4. 自転車駐輪場の利用実態からみた駐輪スペースに関する検討
佐藤 真美, 佐藤 優羽 (指導：若井 正一 教授)
5. 脳血管疾患患者における住宅改造・改修に関する研究
—残存能力による自立度からみた住宅改造・改修計画— 佐藤 由紀乃 (指導：松井 壽則 准教授)
6. 小中一貫校における児童・生徒間の交流に関する研究
—都市型と地方型における施設一体型小中一貫校の比較— 三浦 弘朗 (指導：市岡 綾子 専任講師)
7. 医師の立場から見た病院建築の評価に関する研究
—その1 総合病院に勤務する医師への調査から— 黒川 雄平 (指導：浦部 智義 専任講師)
8. アメダスデータの可視化 —平均気温の変化と電力量— 内藤 貴仁 (指導：八町 雅康 専任講師)
9. 重量床衝撃音の評価方法の検討 竹山 大介 (指導：濱田 幸雄 教授)
10. ひび割れ供試体を用いた無機系表面含浸材の性能評価 須藤 健太, 中村 洋輔 (指導：出村 克宣 教授)
11. 鋼製永久型枠を用いたRC造梁の力学特性に関する基礎的研究 奥山 繁明 (指導：Sanjay PAREEK 准教授)
12. Newmarkの β 法による線形・非線形振動解析に関する基礎的研究
—すべり支承による摩擦力を考慮した免震・制震構造解析— 佐藤 匠 (指導：倉田 光春 教授)
13. 単層ラチスドームに関する実験的研究 田村 直大 (指導：野内 英治 専任講師)
14. 鉄筋コンクリート構造の崩壊挙動 —本学部1号館の弾塑性解析による補強前・補強後の比較—
齊藤 拓生 (指導：Buntara S. GAN 准教授)
15. 情報棟および周辺地盤における地震動観測 石橋 慧人 (指導：千葉 正裕 教授・日比野 巧 助手)
16. 高力ボルトにせん断鋼棒を併用した簡易型継手の開発に関する研究 小林 孝至 (指導：浅里 和茂 教授)

平成20年度卒業設計作品展

今年度の卒業設計展は2009年2月2日(月)～5日(木)の4日間に亘り、70号館1階7012・7013教室にて開催され、24作品が出展した。最終日には昨年度と同様の形式でプレゼンテーションが実施され、午前のポスターセッション形式を経て投票された結果を基に、午後は13作品が各15分程度でプレゼンテーションを行った。設計指導

を担当される非常勤講師8名も参加し、活発な質疑応答が行われ、設計した学生は勿論のこと、いずれは卒業設計の制作を夢見る1～3年次生にとっても、刺激的で有意義な時間となった。なお、特別展示として武田行由院生(狩野研)の修士設計作品も出展した。

(文責：編集係)

平成20年度卒業設計コンクール・展示会等出展作品

※講評会の投票に寄せられた講評の一部を紹介

■日本建築学会「全国大学・高等専門学校卒業設計展示会」

神野藤 真也 (指導：松井 壽則 准教授)

きっかけから変わる明日

ー集合住宅団地における地域コミュニティの形成ー

講評：1階の全てをパブリックにしている構成が良い。

■日本建築家協会「卒業設計コンクール2009」

志村 岳洋 (指導：松井 壽則 准教授)

「ちょっとそこまで。」

ー高齢者の社会参加による農村の活性化ー

講評：建築の構造の「柱梁」「パーツ」の分割がソフト

(活性化への流通)につながっている点は良い。

味のあるアナログな表現にも好感。

■レモン画翠「第32回学生設計優秀作品展」

田邊 幸 (指導：浦部 智義 専任講師)

はじめのいっぽ

ー小さな島から始まるこれからの学び舎の提案ー

講評：もう少し開くべき学校、温暖である意味閉ざされた島、

起伏と平面展開、挑戦と現実、小中一貫校、観光客の誘

いなど、様々なことが上手く提案として調和している。

■日本インテリア学会「第16回卒業作品展」

美濃 孝 (指導：松井 壽則 准教授)

にじむ生活／うまれる家族 ー都市に棲む表層ー

講評：模型圧感。現代都市における生活スタイルの提案として

面白い。生活風景の奥に街が見えるのは良い。

■近代建築「卒業制作'09」掲載

笠原 弘幹 (指導：浦部 智義 専任講師)

距離感 ー忘れられた特別な島ー

講評：社会との距離をつくって建築空間・操作の可能性を広げ、

適度にチャレンジしている点が評価できる。

■学外展示作品8作品(2月19～22日、会場：ビッグアイ6階)

上記5作品のほかに、以下の3作品が展示された。

・佐藤 由佳 (指導：浦部 智義 専任講師)

Daily market ー倉敷の新しい地区ー

・渡邊 洋一 (指導：浦部 智義 専任講師)

選択される公教育 ーオルタナティブの可能性ー

・大津 ひとみ (指導：浦部 智義 専任講師)

むすんでひらいて

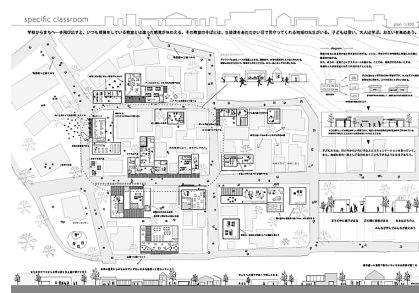
ー教育と文化をつなぐ地域に開かれたクリニックー



神野藤真也さんの作品



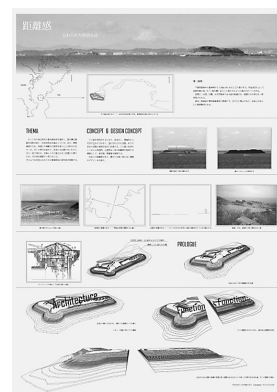
志村岳洋君の作品



田邊幸さんの作品



美濃孝君の作品



笠原弘幹君の作品

卒業生の活躍紹介 第53回神奈川建築コンクールにて最優秀賞受賞

第53回神奈川建築コンクール(平成20年度開催)の住宅部門にて、個人住宅60件、共同住宅19件、住宅団地1件の計80件の応募作品のうち、本学科卒業生の栗原隆氏(若井研OB)が「緑山の家」で最優秀賞を受賞しました。審査員高橋晶子氏の講評(一部抜粋)「一枚の大屋根が2枚の壁だけで支えられたボリューム、その周囲をテラスがとりまく構成。テラスは外部の部屋である。そんな視点をさらりとしかしきっぱりと実現した作品である。」



平成20年度 卒業式・修了式における表彰者

平成21年3月25日

◇齋藤賞◇

修士論文「ねじ込み接合によるアルミ単層ラチスドームモデルの座屈性状に関する実験的研究」

伊藤 禎二 (指導: 倉田 光春 教授, 野内 英治 専任講師)

◇北桜賞◇

修士論文「児童の遊び場に関する調査研究」 鈴木 大 (指導: 三浦 金作 教授, 土方 吉雄 准教授)

修士論文「開口部における歩行者の出入り行動に関する人間工学的研究」 金子 慶太 (指導: 若井 正一 教授)

◇桜建賞◇

卒業設計「はじめのいっぽ - 小さな島から始まるこれからの学び舎の提案 -」

田邊 幸 (指導: 浦部 智義 専任講師)

卒業論文「Newmarkのβ法による線形・非線形振動解析に関する基礎的研究

- すべり支承による摩擦力を考慮した免震・制震構造解析 -」 佐藤 匠 (指導: 倉田 光春 教授)

卒業論文「脳血管疾患患者における住宅改造・改修に関する研究

- 残存能力による自立度からみた住宅改造・改修計画 -」 佐藤 由紀乃 (指導: 松井 壽則 准教授)

卒業論文「鋼製永久型枠を用いたRC造梁の力学特性に関する基礎的研究」

奥山 繁明 (指導: Sanjeey Pareek 准教授)

卒業論文「小中一貫校における児童・生徒間の交流に関する研究

- 都市型と地方型における施設一体型小中一貫校の比較 -」

三浦 弘朗 (指導: 市岡 綾子 専任講師)

◇優等賞◇ 佐藤 匠, 佐藤由紀乃, 板垣 鉄哉

◇工学部長賞◇

学術・文化部門: 美濃 孝 第12回JIA東北建築学生賞 (日本建築家協会東北支部主催)

奨励賞みやぎ建設総合センター受賞 作品名「ひろがるとおり」

■瀬戸洋樹君(三浦研・4年生)は、10月26日に受験したFE資格試験に合格した(FE: Fundamentals of Engineering, PE資格の一次試験)。学部生での合格は初の快挙(写真)。



■唯野陸泰院生(狩野研・M2)は、12月、須賀川市まちづくり推進協議会および須賀川商工会議所の依頼を受けて、『須賀川市中心市街化区域内における民間住宅調査報告書』を上奏した。

■ルワンダからの留学生 M. J. ミシェル君(3年生)は、12月2日、(独)国際協力機構JICA二本松青年海外協力隊訓練所の語学交流会にゲストとして参加した。

■12月26日、次の2編を対象とした博士課程学位申請発表会が工学部本

館3階第1会議室にて開催された。

齊藤俊克院生(出村研)

論文題目「ビニロン繊維補強ポラスコンクリートの性状と調合設計法」

田綿隆文院生(出村研)

論文題目「日本の主要中心業務地区における外壁仕上材料の採用傾向と地区間類似性」

教室ニュース

■浅里教授は、1月21日に設立された、福島県における構造計算適合性判定の受け皿となる、一般社団法人福島県建築安全機構において、評議員に就任された(任期: 4年間)。

■1月25日に駅前大通りにオープンした「まごっせプラザ」(郡山まちなか交流拠点)で、3月末までの期間にまちづくりに関する情報提供と

して、土方研究室による研究成果や郡山市を対象敷地とした卒業設計・修士設計作品を紹介している。

■土方准教授、市岡講師は、2月19日、郡山市より平成20年度郡山市景観まちづくり賞選考委員会の委員を委嘱され、土方准教授は会長に選出された。

■土方准教授は、2月20日、福島県立郡山北工業高等学校より第5回北工テクノフェアの講師を依頼され、講話した。

■土方准教授は、2月23日、福島県より地域住宅政策等懇談会(県中支部会)の講演を依頼され、「中心市街地にみる持続可能な地域社会形成に資する住まいづくり、まちづくりについて」と題して講演した。また、意見交換会「街なか居住に求められるものとは?」では、土方准教授がコーディネーターを、及川美帆院生(土方研・M1)がパネリストを依頼された。